

第15回 近畿地区公立小中学校事務研究大会（滋賀大会） アンケート集計結果

回答期間 R5. 8. 18～9. 19

回答数 117 件

1 回答者の都道府県

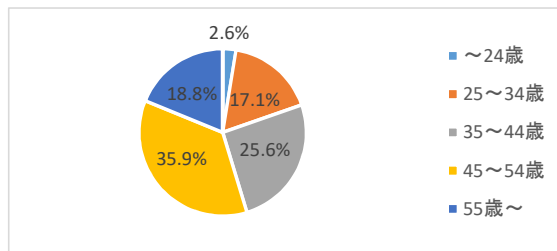
	都道府県	回答数
近畿	滋賀県	24
	京都府	66
	大阪府	6
	兵庫県	6
	奈良県	12
	和歌山県	0
近畿外	福井県	1
	愛知県	1
	三重県	1
	合計	117

2 回答者の職種

区分	回答数	構成比
小・中学校事務職員	104	88.9%
義務教育学校事務職員（小中・小中一貫校を含む）	5	4.3%
特別支援学校事務職員	4	3.4%
事務職員退任者	2	1.7%
教育委員会・事務局等職員	0	0.0%
教育関係者（研究者含む）	2	1.7%
その他	0	0.0%
合計	117	100%

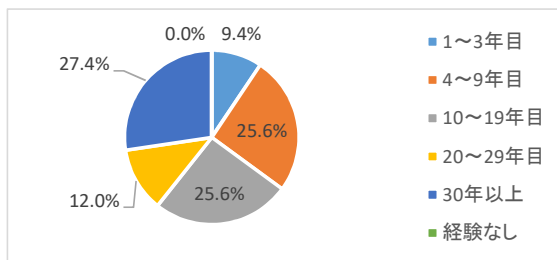
3 回答者の年齢（R5. 4. 1現在）

年齢	回答数	構成比
～24歳	3	2.6%
25～34歳	20	17.1%
35～44歳	30	25.6%
45～54歳	42	35.9%
55歳～	22	18.8%
合計	117	100%



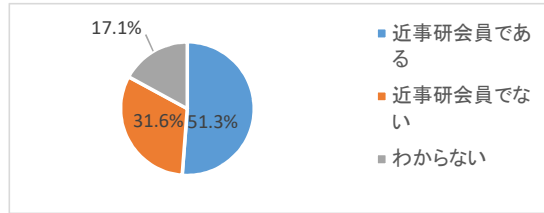
4 回答者の経験年数（R5. 4. 1現在）

経験年数	回答数	構成比
1～3年目	11	9.4%
4～9年目	30	25.6%
10～19年目	30	25.6%
20～29年目	14	12.0%
30年以上	32	27.4%
経験なし	0	0.0%
合計	117	100%



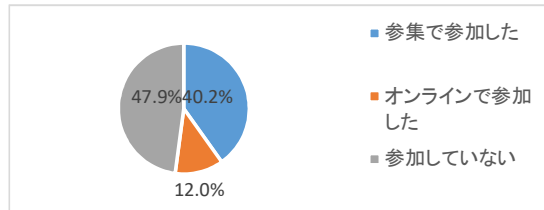
5 回答者の近事研会員資格について

区分	回答数	構成比
近事研会員である	60	51.3%
近事研会員でない	37	31.6%
わからない	20	17.1%
合計	117	100%



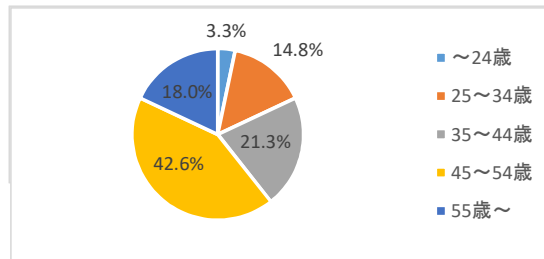
6 大会参加の有無

区分	回答数	構成比
参集で参加した	47	40.2%
オンラインで参加した	14	12.0%
参加していない	56	47.9%
合計	117	100%



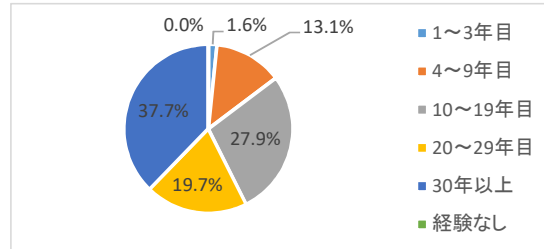
参加者内訳（年齢）

年齢	回答数	構成比
～24歳	2	3.3%
25～34歳	9	14.8%
35～44歳	13	21.3%
45～54歳	26	42.6%
55歳～	11	18.0%
合計	61	100%



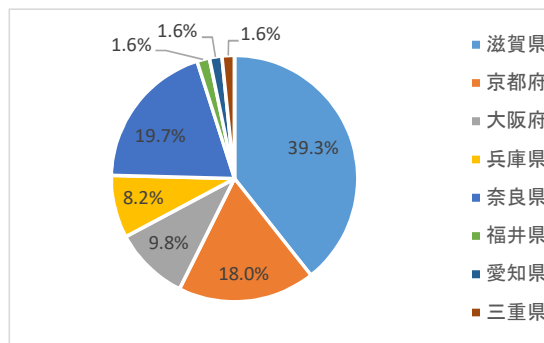
参加者内訳（経験年数）

経験年数	回答数	構成比
1～3年目	1	1.6%
4～9年目	8	13.1%
10～19年目	17	27.9%
20～29年目	12	19.7%
30年以上	23	37.7%
経験なし	0	0.0%
合計	61	100%



参加者内訳（都道府県）

区分	回答数	構成比
滋賀県	24	39.3%
京都府	11	18.0%
大阪府	6	9.8%
兵庫県	5	8.2%
奈良県	12	19.7%
福井県	1	1.6%
愛知県	1	1.6%
三重県	1	1.6%
合計	61	100%



7 大会の参加動機について参加動機（複数回答）

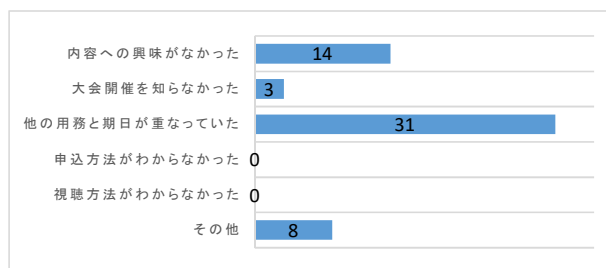
参加動機（経験年数）

区分	回答数						
	全体	1～3年目	4～9年目	10～19年目	20～29年目	30年以上	経験なし
近事研調査研究部報告への関心	12	0	0	4	2	6	0
全体会（パネルディスカッション）への関心	34	0	3	5	7	19	0
近事研大会への興味	21	1	5	5	3	7	0
ハイブリッド開催のため	6	1	0	3	1	1	0
各種研究大会運営の参考	3	0	0	2	1	0	0
研究会役員用務	6	0	0	4	1	1	0
教委・研究会の指名・割当	2	0	0	2	0	0	0
その他	6	0	1	1	2	2	0

※ その他動機…「地元開催のため」「神戸が最後だから」「指導主事からの情報提供」等がありました。

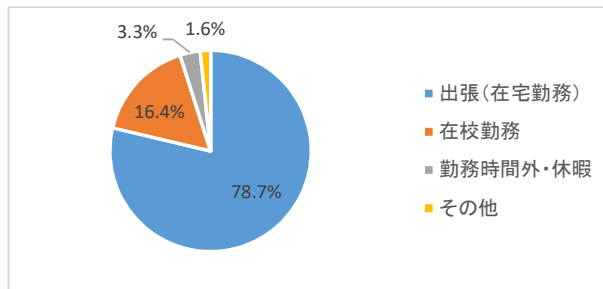
8 不参加理由（複数回答）

区分	回答数
内容への興味がなかった	14
大会開催を知らなかった	3
他の用務と期日が重なっていた	31
申込方法がわからなかった	0
視聴方法がわからなかった	0
その他	8



9 参加にあたっての勤務状況

区分	回答数	構成比
出張（在宅勤務）	48	78.7%
在校勤務	10	16.4%
勤務時間外・休暇	2	3.3%
その他	1	1.6%
合計	61	100%



10 各内容の評価について

各項目平均評価（経験年数）

区分	評価					
	全体	1～3年目	4～9年目	10～19年目	20～29年目	30年以上
調査研究部報告	3.79	5.00	4.00	3.71	3.92	3.65
PD（令和の日本型学校教育の推進）	3.57	4.00	3.88	3.24	3.58	3.70
PD（あなた自身の学び）	3.79	4.00	4.00	3.47	4.00	3.83
PD（意見共有）	3.38	2.00	4.25	2.94	3.50	3.39
申込方法	3.31	2.00	3.50	3.53	3.33	3.13
大会全体	3.95	5.00	4.13	3.71	4.00	4.00

各項目平均評価（都道府県）

区分	評価						
	全体	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	近畿外
調査研究部報告	3.79	3.63	3.91	4.00	3.60	3.92	4.00
PD（令和の日本型学校教育の推進）	3.57	3.63	3.55	3.50	3.60	3.50	3.67
PD（あなた自身の学び）	3.79	3.96	3.82	3.67	3.60	3.58	3.67
PD（意見共有）	3.38	3.29	3.18	3.33	3.60	3.92	2.34
申込方法	3.31	3.33	3.36	3.50	2.40	3.17	4.67
大会全体	3.95	3.92	3.91	3.83	3.60	4.17	4.34

※ 各項目の設問文は以下のとおり

調査研究部報告	今日の報告からどのようなことを学びましたか？気づきや新たに得た知識はありましたか？
全体会（令和の日本型学校教育）	パネルディスカッションを通して、「令和の日本型学校教育」を勤務校等でどのように推進していくかをイメージすることが出来ましたか？
全体会（あなた自身の学び）	パネルディスカッションを通して、あなた自身にとっての「学び」をアップデートすることができましたか？
全体会（意見共有）	パネルディスカッションでのフォームやスプレッドシートを活用した意見共有はわかりやすかったですか？
申込方法	Peatixを利用した申込は従来の方法と比べ、利便性は高かったですか？
大会全体	大会全体の満足度

11 記述項目（抜粋）

（調査研究部）

今日の報告からどのようなことを学びましたか？

・	能動的に運営協議会に参加する人は業務負担の増加をあまり感じず、受動的に参加している人は負担増加を感じているという報告について、なんとなく感じていたことが数値で示されると信憑性があり、参考になりました。運営協議会だけでなく、全ての業務がそうだと思います。真の働き方改革、well-beingが何なのかということも考えていけたらと思いました。
・	調査単位（県→近畿地区）を大きくして回答割合や内容はそう変わらないのだと感じました。
・	アンケート調査から、どのようにしていくべきか言語化して伝えてくださり、イメージが湧きました。今までの研修では、難しい言葉の解説に留まるところがあり、経験年数が少ない自分では、何からして良いのかイメージが湧きませんでした。今回伝えてくださったことから、少しずつ出来そうなことを探してやってみたいと言う気持ちになりました。

(調査研究部)

報告者に対してコメントをお願いします。報告者へのエールや報告への批評など、どんなことでも構いません。

・	報告を聞いて、受け身では負担感が増すだけなので、主体的に取り組むことが大事で、今の自分を見つけ出すと自己有用感を持つことができるという言葉に勇気をいただきました。
・	異なる都道府県から集まり、一つの研究を進めるのは大変だろうと感じています。様々あったかと思えます。長きの活動、お疲れさまでした。研究成果から、私の学びを深めたいと思います。

(全体会)

パネルディスカッションを通して、アップデートされた学びについて、具体的に教えてください。

・	住田先生の話聞き、幼稚園のように教職員自身も職員室で決められた枠の中で考えることから自由な発想で自由な発言をするような雰囲気作りに努めることで、小中学校の教育も変わっていくのではないかと期待がもてました。
・	多様性の時代に、学校だけでは対応しきれないので、合理的に補い合うシステムが必要である。学校を中心としたコミュニティ作りが重要になってくる。(これって、原点回帰ですよ…戦後の昭和の…と思いました。)
・	新しい知識を得るのは大切ですが、新たに何かを作るのではなく、今の延長線上にあることをやっていくというお話になるほどと思いました。真剣に、必死に考えて行動して行く先にアップデートされた道ができて行くんだと感じました。

(大会全体)

ご意見・ご感想

・	今までは「現地参加したいけども、様々な事情により現地に行けない⇒参加をあきらめる」でしたが、ハイブリッドで対応いただけると現地に行くことができなくても学ぶことができる。現地参加のみにすれば必要のない準備もあるのに、オンラインの道も確保していただけることに感謝します。
・	「学校事務職員は、学校に関わる全ての人を幸せにする仕事である。」働く上で大事にしていきたい言葉をありがとうございました。
・	豪華パネリストとても良かったです。みんな話したがりなので司会進行が大変だったと思います。お疲れ様でした。運営も取り組みをされ、今後の研究大会などでも活用できたらと思いました。Webとのハイブリット開催でしたが、とてもスムーズな運営だったと思います。

12 今後の近事研活動について

区分	回答数						
	全体	1~3年目	4~9年目	10~19年目	20~29年目	30年以上	経験なし
近事研大会の開催	43	5	7	13	5	13	0
近事研セミナーの開催	55	6	11	12	6	20	0
サマーフォーラムの開催	42	2	7	12	6	15	0
調査研究活動(近畿地区共通の課題解決)	42	5	14	13	5	5	0
広報活動(会報の発行・HPの運営)	30	3	7	10	4	6	0
その他	2	0	0	1	1	0	0

区分	回答数						
	全体	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	近畿外
近事研大会の開催	43	12	17	5	3	5	1
近事研セミナーの開催	55	13	23	4	4	9	2
サマーフォーラムの開催	42	7	17	5	4	6	3
調査研究活動(近畿地区共通の課題解決)	42	9	29	3	0	0	1
広報活動(会報の発行・HPの運営)	30	4	21	1	1	3	0
その他	2	0	0	1	1	0	0

区分	回答数			
	全体	会員	会員外	不明
近事研大会の開催	43	23	15	5
近事研セミナーの開催	55	31	15	9
サマーフォーラムの開催	42	29	10	3
調査研究活動(近畿地区共通の課題解決)	42	13	23	6
広報活動(会報の発行・HPの運営)	30	16	7	7
その他	2	2	0	0